

平成21年10月号

経営者・リーダーは人格を磨け

「日本で一番大切にしたい会社」という本が30万部以上売れています。この手の本としては驚異的な売れ方です。著者の法政大学の坂本光司教授が「人に優しい会社を目指したい」と論文の中で社員のモチベーションについて書かれています。「社員のモチベーションが高い企業と低い企業とを3年間比較研究したことがある。そこで分かったことは人事制度や給与制度はほとんどモチベーションに影響を与えない。結論はリーダーの人格。経営者や上司への信頼が薄れた時にもっとモチベーションが低下することが判明した。どんな制度を作るかではなくどんなリーダーがいるかが大事であって、経営者が自分自身を変えず自分以外のものをいくら変えても会社はよくありません。」これは500社以上のアンケートの結果です。坂本先生のことが税理士新聞でも掲載されているので添付におきます。この研究成果は、中小企業経営者で勘違いして社員教育が足りないから業績が悪いと思っている方に多くの気づきを与えてくれます。モチベーションが低いのは社員の責任ではなく自分の人格にあるのだと、よくわかれば経営者は人格を高めればよいわけですね。

人格を高めるのはどうすればよいのか、中小企業の経営者で自分は人格が高いと思っている経営者はほとんどいないのではなかろうかと思っています。みんな自分の人格が低いために失敗をし、社員に迷惑ばかりかけていると反省ばかりしているのではなかろうか。私も毎日反省ばかりしています。もっと準備をしっかりとすればよかたか実力不足を痛感しています。経営者・リーダーは自分では人格が低いと思っていれば社員やお客様等の関係者が人格が高く尊敬されればよいのではなかろうか。すなわち、自分がどう思っているかではなく他の人がどう思っているかが大事なのではなかろうか。他人が人格が高いと思われればよい方法の1つとして経営計画書の経営方針書があります。経営方針書には長期事業構想が書かれており、会社の未来と社員の未来が書かれています。特に社員の処遇で社員が「社長はとまで自分達の将来を考慮してくれているのか」という内容を書けば社員は社長を尊敬し、社長を信頼しついてきてくれるのではなかろうか。さらに個別方針では、環境整備に力を入れ、そこに書かれている整理、整頓、清掃、作法、挨拶、言葉使い等を社長、リーダーが先頭に立って実践していけば間違いなく人間性が向上し、尊敬される人格になれるのではなかろうか。社長・リーダーの後ろ姿を見て、社員は経営方針書に書かれていることの本気さを感じるとその方針に協力し、社員自身も変わり、社員のモチベーションが高まるのではなかろうか。

経営計画書は社長が変わり、社員のモチベーションが高まるまさに魔法の書です。多くの会社が数字の計画は作るのですが、方針書まで作っていません。もったいないことだと思います。目の前に会社と社長、社員がよくなる便利な道具があるのに使おうともしません。多くの会社の社長は社員想いで自分を犠牲にしてまで会社をよくし、社員に幸せになってもいいたいと思っただけで表現力が乏しいために社員に伝わりません。経営計画書により、社長の想いを表現し、価値感を共有し、理想とする会社を共に創るではありませんか。